

# 「日本3.0」

Vol.36

## 「編集思考」が 日本を救う

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

私事で恐縮ですが、10月に「編集思考」という本を出版することになりました。

私は編集者を生業としていたため、編集という行為にさほど価値を感じてこなかったのですが、メディア業界の枠を越えている人々と触れ合うほどに、「編集思考はメディア業界の外でこそ輝きを発揮する。編集思考を身に付けるだけで、日本はもっとおもしろくなる」と確信するようになりました。

日本は編集する素材の宝庫です。街を歩いていても、誰かと酒を飲んで

でも、「これとあれを組み合わせたら、面白い化学反応が起きそう」という「新結合」のアイデアがひっきりなしに湧いてきます。

いい素材がありすぎて、体と頭がいくらあっても追いつかないくらいです。

私は、もうかれこれ17年近く編集者という仕事をやっていますが、この仕事を一言で表すならば「偉大な素人」でしょうか。

私が典型ですが、編集者とはとくに何の専門性もない人間です。

あらゆる分野に好奇心を抱く、多動な存在。要は、単なる「つなぎ屋」です。

編集者は、あらゆる分野に首を突っ込みますが、素人だからこそ、いろんな人や事業をフラットに見ることができます。先入観やしらがらみから自由になりやすいのです。

では、どうすれば「偉大なる素人」になれるのでしょうか。

必要なのは、「空気を読み切った上で、空気を打ち破る」力です。

よく場の空気も読まずに発言する人がいます。これは「単なる素人」

です。そうした発言は、アクセントにはなっても、実りある成果を生みません。

一方、大半の日本人は、空気を読みすぎて、空気を破れなくなりがちです。これは「静かなる素人」です。メタ視点で自分を見すぎて、自分を縛りつけてしまっているのです。害もない代わりに、実りもありません。しかし、「単なる素人」よりは見込みがあります。空気を読む力はあるからです。

「偉大な素人」とは、メタ視点で空気を読みながらも、ここぞというタイミングで、ときに周りが眉を顰めるような、グツと心に刺さる言動に踏み切る存在です。

「単なる素人」に足りないのは、知識であり、周りを察する力であり、メタ認知能力です。

「静かなる素人」に足りないのは、逆張りする勇氣であり、新たな発想を生む編集力です。それをトレーニングによって育めば、「単なる素人」も「静かなる素人」も、「偉大なる素人」へバージョンアップすることができるとです。

### Profile

NewsPicks 取締役 新規事業担当

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。2014年7月からソーシャル経済メディア「NewsPicks」の編集長を務めた。2018年4月より現職。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか」「日本3.0」がある

